

4 講師の先生から一言

研修講師： ひらやま 平山 たけし 猛 氏

(株)トライローグ 代表取締役
福岡女子大学 非常勤講師
日本ファシリテーション協会災害復興委員会 委員長



2019 年にスタートした本事業の前身である「かごしまシニア人材育成活用事業」から6年間にわたって関わり、鹿児島県内の様々な地域にお邪魔する機会を頂きました。毎回地域が抱える課題の重要性に気付かされる一方で、そこで暮らす高齢者の皆様のパワーに元気をもらっておりました。

今年度のフォローアップ研修において、男性参加者を増やす取組を“一度やってみよう”というネクストアクションのアイデアをまとめて発表して頂いたグループがありました。この“とりあえずやってみよう”精神は地域活動の中で非常に大事で、何かが変わるきっかけは、誰かが言い出した一言から始まったという例は山ほどあります。そのためには、誰もが“やってみたい”と気軽に手が挙げられて、それを応援してくれる周りの環境があることがとても重要で、言い出しつpegが損をしない、一人ではないと感じられる、そんな風土が地域に醸成されていることが必要です。

また、さらに重要なのは、失敗も許容し、失敗から学んで、次のチャレンジに繋げていくことです。今年度も、実践研修では素晴らしいアクションプランが出来上がっていましたが、実際にやってみたら思うようにいかなかった、そんな地域もありました。しかし、フォローアップ研修の中でやったことを振り返り、失敗の中から得られた気付きをメンバーの中で共有し、その中から次のアクションのアイデアが湧き上がってきた、そんな経験をされた方も多かったのではないのでしょうか。

本事業の実践研修からフォローアップ研修までの一連のプロセスは、組織の成長(課題認識→実践→持続可能な仕組みづくり)および組織学習(運営改善→活動内容の見直し→価値観の変容)のプロセスそのものです。そして、このプロセスを回し、組織の成長・学習を加速させる鍵として重要な役割を担うのがファシリテーターです。地域(コミュニティ)という組織において、行政職員および社協職員がファシリテーターとなって地域全体を巻き込みながら、このプロセスを継続的に回していくことは地域課題解決のための最善のアプローチであり、それによって、「高齢者＝支援される側」ではなく「地域を支える主体」という新しい価値観を定着させることが出来れば、持続可能な地域の発展につながると信じています。

今後、さらに鹿児島県内の行政・社協の中にファシリテーションのスキルとマインドを持った職員が増え、地域の中にファシリテーションが根付いていくことを願っています。今年度の研修にご参加いただいた、鹿児島地域、南薩地域、熊毛地域で取り組まれたことが、次年度以降も継続され、これらの地域が益々発展していくことを祈念しながら、私自身もまた機会があれば是非とも、鹿児島を訪れたいと思っています。